

地域の竹をエネルギーとして利用 バンブーエナジー株式会社

下坂下のバンブーエナジー株式会社(岡田久幸代表取締役)が令和2年度新エネ大賞の分散型新エネルギー先進モデル部門で経済産業大臣賞を受賞しました。

これは、今まで竹を燃焼させるとボイラーを痛めるクリンカが発生するため進んでいなかったエネルギー利用を、同じく未利用材であった杉の皮と混焼させることによってそのクリンカを防ぎ、竹のエネルギー資源化を実現したことで、多くの地域が抱える課題の解決につながる先進的ビジネスモデルとして評価され、今回の受賞に繋がりました。

同社は、「今回の受賞により、少しでも皆さんに注目していただき、南関町を知るきっかけになってほしい。

また、ノウハウなどを発信し、新たなビジネスモデルとして広まっていけば嬉しい」と喜びを語りました。



バンブーエナジーの宮崎さん(右)、牧嶋さん(左)



味噌を寄贈した古郷さん(中央右)上田さん(中央左)

学校給食で食べて

JAたまな南関郷女性部がみそを贈る

JAたまな南関郷女性部(古郷明子部長)は2月9日、手作りの麦みそ11キロを町教育委員会に寄贈しました。

これは食農教育の一環として、玉名産の大豆を使用した手作りみそを味わうことで地元の農業に興味を持ってもらおうと毎年続けられている取り組みです。2市4町の小中学校に寄贈され、学校給食で食べられます。

寄贈に訪れた古郷さん(和水町)と上田ミツエさん(関下)は「添加物が入っていないみその味を知ってほしい」と思いを語り、谷口教育長は「子どもたちには、手作りのみそだということをしっかり伝えます」とお礼を述べました。

第20回なんかん古小代の里

陶器・梅まつりは 中止します



3月6日(土)、7日(日)に開催を予定していた「第20回なんかん古小代の里陶器・梅まつり」は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止します。

ご理解のほど、よろしく申し上げます。

問 まちづくり課 商工観光係 ☎57-8501

献血に行こう!

献血者が減少し、血液が不足しています。皆様のご協力をお願いします。

とき 3月19日(金)

午前9時30分～午前11時30分

午後0時45分～午後4時45分

ところ 南関町公民館

40分で
助かる命がある!

あなたのその痛みが、あの人の心を癒らげる。
あなたのその笑顔が、あの人の命をつなげる。
あなたのその行動が、あの人に愛を伝える。



問 保健センター ☎53-3298

オリジナル箸の完成お披露目会

第二小学校3年生×株式会社ヤマチク

第二小学校(隈部孝二校長)3年生15人は、総合学習の時間で株式会社ヤマチク(山崎清登代表取締役)社員の雪野真理子さん(上長田)を講師に「お箸」の文化を勉強する授業を昨年10月から全4回にわたって行っています。

4回目の授業となった1月28日、12月にデザインしたオリジナル箸「草原箸」と「ライン箸」が完成し、お披露目会がありました。

雪野さんが、デザインした竹箸の加工過程を写真や動画を活用して説明すると、児童たちは画面を食い入るように見つめ、真剣に話を聞いていました。

出来上がった2種類の箸は小学生が使いやすい長さで、正しい持ちかたになるよう目印を入れるなどデザインも考えられています。

2種類の竹箸はその場でヤマチクのオンラインショップで販売されると、30分ほどで完売となりました。

「草原箸」をデザインした田中翔大(高久野)さんは「デザインどおりに完成したのでびっくりした。自分たちが考えた竹箸を真剣に作ってくれてうれしい」と笑顔で話しました。



▲完成した草原箸(上)とライン箸(下)



▲お礼のメッセージを描いている様子



▶第三小学校で行った租税教室の様子

税金の大切さを学ぶ

小学校で租税教室

玉名地区租税教育推進協議会(池田誠一会長)は、次代を担う児童に、税の意義や役割を正しく理解してもらい、社会の一員としての自覚を持ってもらうために毎年租税教室を開催しています。役場税務住民課の職員や玉名税務署職員が町内小学校4校を訪問し、租税に関する授業を行いました。職員はマグネットシートやDVDなどを活用し、税金がどのように使われているのかや税金がなくなると自分たちの生活にどう影響するのかなどを説明しました。

また、1億円の大きさや重さを感じてもらうため1億円のレプリカを持たせ、実際に抱えてみた児童たちは、その重さに驚いていました。

登り窯のこと、もっと知って

小代焼岱平窯がナイトツアー開催

宮尾の小代焼岱平窯は1月29日、登り窯を見学できるナイトツアーを行いました。

これは、窯元の坂井博樹さんが小代焼の認知度を高めようと初めて企画し、県内外から10人が参加しました。

ツアーは午後9時に開始し、坂井さんから登り窯の構造について説明を受け、15分おきにまきをくべる様子を見学しました。

参加者たちは、寒空の下、窯の中で揺らめく幻想的な炎をいつまでも見つめていました。

熊本市からの参加者は「思った以上に手間がかかっているのがびっくりした。炎がとてもきれいだった」と話しました。



▶窯の中をのぞき込む参加者